http://www.ne.jp/asahi/chonan/kenkyu/　　email ： ch0330@support.email.ne.jp

全国長南会通信 49号

事務局 ：300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930　長南秀則 TEL/FAX　029-XXXX-XXXX

発行日 平成 26 年 12 月 15 日

全国長南会庄内での集い

平成 26 年 11 月 13 日　知憩軒

後左から 厚、伸一、賢一、一美、智恵子、源一、寿一、君子、清、光、照光、成、秀則

山形県鶴岡市には、個性豊かで活動家の長南氏が大勢いる。その代表的な１１人が知憩軒に集合し、「全国長南会庄内の集い」が企画された。青宿からは照光副会長、照光さんの従弟の清さん、秀則事務局長が参加した。

１１月１３日（木）青宿の３人は朝５時に出発し、東北道を走り、山形道に入った。郡山までは快晴で、東北道に入るとあちこちできれいな虹がかかる天気だったが、山形県に入る頃には雨が降りはじめ、月山の峠では外気温が１度を表示し、みぞれに変わった。冬型の季節到来である。それでも、予定通り１１時過ぎには櫛引の知憩軒に到着し、会場準備中の成さん、光さんと再会した。１２時から全員での昼食会の後、いよいよ「全国長南会庄内の集い」が開催された。

成さんの司会進行により、この会合の趣旨の説明があり、照光副会長のあいさつ、秀則事務局長から、全国長南会の発足から今日までの活動の経緯の紹介、中村就一さんから長南会通信の編集を引き継いだ経緯等を報告した。

その後それぞれ個人々な活動の報告があり、一美さんから、南三陸町その他、被災地に出向き、元気づけるため芋煮会などを行い、「かたりべ」として昔話をしていることや、光さんからは、般若心経を月山の頂上に奉納して供養していること、また、厚さんからは、登山道整備や、古道の整備など山の管理をしているとのお話があった。君子さんは長南年恵のお墓参りを続けていること、源一さんからは、子供たちがより自然に親しむための活動の報告、賢一さん伸一さんからの近況。その他、庄内地方が果実栽培が盛んな理由など様々なお話があった。

第二部では、一美さんの庄内弁の昔話２話で和やかな雰囲気になり、その後、香風会のミニコンサートで大変盛り上がり、最高の集いだった。　（鶴岡市）

全国長南会庄内の集い参加者 →

かたりべ 一美さんによる昔話

長南照光 青宿 長南会副会長
長南秀則 〃 事務局長
長南清 〃
長南光 荒谷 知憩軒主人
長南源一 〃
長南和志 上田沢
長南寿一 狩川
長南一美 〃
長南賢一 肝煎
長南伸一 〃
長南君子 山王町
長南厚 日出町
長南成 井岡
長南智恵子 〃

香風会メンバー
佐藤朝吉（ボーカル）
加藤龍介（キーボード）
園部清志（ギター）
大友教示（ハーモニカ）
難波恵子（尺八）
斎藤由美子（ボーカル）
長南智恵子（ボーカル）
長南成（司会、尺八）

香風会によるミニコンサート（演奏曲 ふるさと、荒城の月、あゝ上野駅、花笠音頭など）

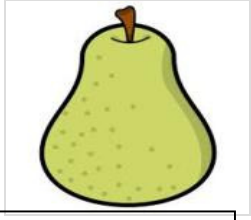
寿一さんによる幕末の歴史発掘の話

翌朝、知憩軒の前で記念撮影（11 月 14 日）
後左から、秀則、照光、成、光、清
この後、雨のため羽黒山行きを断念し、くらげの加茂水族館へ向かった。

全国長南会庄内での集い

平成２６年１１月１３日
会場　知憩軒（長南会の宿）

１．庄内各地から長南一族が集合　　１１：３０頃
２．茨城県阿見町青宿から３名の長南会三役が到着　　１１：３０頃
全員集まったところで、光さんの手料理で昼食会
３．庄内での集い開会　（進行　長南成）　　１２：５０より
４．全国長南会三役の紹介と、ここに至るまでの報告
５．全国長南会年間計画と参加のお願い
６．青宿の皆様を歓迎する会　　１４：００より
①長南一美さんの「昔むかしのお話」２題
②香風会による演奏会



かたりべの一美さんの庄内弁がよく聞き取れなかったのが残念だった。庄内の人達は同じ所で笑っているのに、取り残された感じだったが、青宿の照光さんは、おおよそのあらすじは理解できたようだった。できれば、文章になっているものが欲しいと思うけれど、語り継ぐ性質のものだから無理でしょう。ボイスレコーダーを持っていけば良かったと反省している。

「せやみこき」

翌日「せやみこき」の意味を成さんに質問したら、標準語にうまくあてはまる言葉がないらしく、説明しにくかったようだ。ネットで調べたら「怠け者」だそうだが、怠け者とは微妙にニュアンスが違う、ズバリは訳せない庄内地方独特の言葉なのだろう。

鶴岡市立　　**クラゲドリーム館**

加茂水族館

翌日、成さんの案内で訪れた加茂水族館。テレビなどで紹介されているので有名だが、クラゲの種類の多さに驚き、幻想的な姿に感動した。

山形県内唯一の水族館。世界中の海や川からたくさんの生き物が集まっている。中でもクラゲの展示種類（５０種類以上）は世界一を誇り、色とりどりの様々なクラゲが漂う様子はとても魅惑的だ。このほかにも子どもに人気のアシカショーやウミネコの餌付けなども行う。
所在地：鶴岡市今泉字大久保657-1
電話：0235-33-3036
時間：午前9時～午後5時
休み：なし
料金：大人1000円、小中学生500円、
未就学児無料

長南氏の先祖　「野見宿禰（のみすくね）」の話題

２０２０年東京五輪・パラリンピックのメーン会場となる国立競技場（東京都新宿区）の建て直しに伴い、メーンスタンドの柱にあった二つの壁画のうち、向かって左側の「野見宿禰像」の一部が１１月５日、取り外された。

壁画は国内のフレスコ画の先駆者である故・長谷川路可の作品で、１９６４年の東京五輪前に競技場に設置された。相撲の元祖とされる野見宿禰は「力の象徴」として「美の象徴」でもある「ギリシャの女神像」とともに名場面を見守ってきた。作品は保存され、新競技場で展示される予定。（平成２６年１１月５日　朝日新聞夕刊より）

昔、古墳時代、高貴な人がなくなると、仕えていた人も一緒に墓に埋められるというしきたりがあった。人や馬の形をした粘土で作った埴輪を代用したらどうかと提案したのが野見宿禰だ。このことから土師臣（はじおみ）という名前を天皇からもらった。また、當麻蹴速（たいまけはや）という勇敢な力持ちと相撲の天覧試合で勝利したということから、相撲の神様（力の象徴）として今でも大相撲や各地の神社に祀られている。そして、その後時代は変わり、土師氏は、自分の住む奈良市郊外の土地の名前の菅原を名乗ることになり、菅原道真が出てくる。その菅原氏の子孫が長南になったのである。（長南氏の研究より）

会 計 報 告

平成 26 年 8 月 1 日～11 月 30 日

	入　金	出　金
前回残		676,052
会費	15,000	
振込手数料		210
利息	64	
香典		20,000
４８号発行代（カラー）		21,892
取材費		48,566
事務用品費		12,232
合計	691,116	102,902
残高		588,214

会費納入ありがとうございました。

長南慎一	3,000	仙台市泉区
長南良彦	2,000	名取市
長南清	10,000	練馬区

内　訳	
現　金	24,212
普通預金	545,392
当座預金	18,610
合　計	588,214

我が先祖 長南七郎忠清 三重県名張市 江南正

長南七郎忠清は上総介広常の家臣であり、源頼朝に鞍替えする前は当然平氏で、奉行所の牢獄の鍵の管理と切腹の介錯人をしていた。源氏時代には鎌倉幕府問注所の寄人として仕えた。

東大寺から幕府への要望を受け守護職である千葉氏の家臣長南氏が、黒田荘の悪党刈りをするために黒田荘に来たが、悪党が多人数いたので失敗し、一度上総に戻る。この時忠清が陣頭指揮を執る。２回目にして忠清が部下を連れて参上し悪党狩りを成功させた。

直接幕府により帰ってこいとの指示があったが、帰らないで悪党刈りの際に怪我をしたという偽り事を密兵に報告させた。それは長南氏が、北条家につくかどうか燻（くすぶ）っており、残党狩りを危惧していたため、スパイを送り込んで幕府の現状を調査させていたのである。そして、忠清は黒田荘で肺病のため亡くなり、忠清の弟が遺骨をもって帰り荼毘に付した。

忠清には子供が上総に（宗貞or宗定）おり千葉家より病気ではなく殺されたと言われ親の仇討のため２０数名で黒田荘へ乗り込んで戦ったが、逆に手負い、数名で上総に帰った。よって、こちらにはお墓がなく、上総にある。上総では大きな葬式をしている。

現在の長屋の実家を含めて大江寺も領地を所有していた。だから生活で困ることはなかった。温厚な性格で、信仰心に暑く、人望があった。

又、この黒田荘の人々から上総に帰るのはやめてほしいと言われ留まった。子供が３人いて１人は亡くなり、１人（常忠）は上総に行き、温厚な１人はこの黒田荘に残った。

その後上総に戻った常忠の子である忠宗が宝治合戦において出家し、黒田荘へ。長南家では本家と分家の両地問題で争っていたが幕府から与えられた録高が下がり本家から分家に来ている。忠宗の弟である長南入道は本家に養子に行っている。黒田荘は荒地で畑にするのに苦労した。商売、お寺、農業に分かれていたが、お寺、神社が多かった。

上記文章は長南年恵と同じ霊能者に聞いた事柄をまとめた文章であるが、これが明白となる物的証拠を探す必要がある。

１つは東大寺が黒田荘浪人が暴れた件を鎌倉幕府に嘆願した文章が何通か出て来る、もう１つは上総にお墓があること。

長南忠宗の弟が鶴岡八幡宮で長南七郎として寄進しているのが本当に弟か？

長南常忠の兄弟で宗貞or宗定が出てくる資料は？

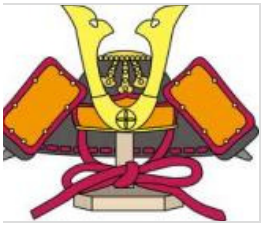
これらが解明されれば、わざわざ上総から伊賀国に来た根拠としての可能性は大きい。

長南七郎忠清は、頼朝が自分と同じ又はそれより大きな勢力を排除する為、上総広常を殺し、実の弟義経、範頼を謀殺。尚兄の忠春も亡くした中で、執権も北条に変わりこの乱世で武士の時代は血筋が長く続かないと感じたのではないか。

江南正さんから、長南忠春、忠清に関する資料が送られてきた。江戸時代後期に作られたものであるというもの。錦絵や武鑑であるが、その当時にあった、それ以前の文献を元にしたものであろうと思われる。

江南さんの先祖は、長南忠春の弟長南七郎忠清であるという。忠清は鎌倉幕府の問注所つまり今の裁判所に勤めて、源頼朝の信任が厚かった人で、忠清から３５代目の江南一氏の弟が正さんだ。

長南氏が、江南と改姓し、伊賀の国（三重県名張市）に移った謎を調査しているうち、貴重な資料の発見につながった。



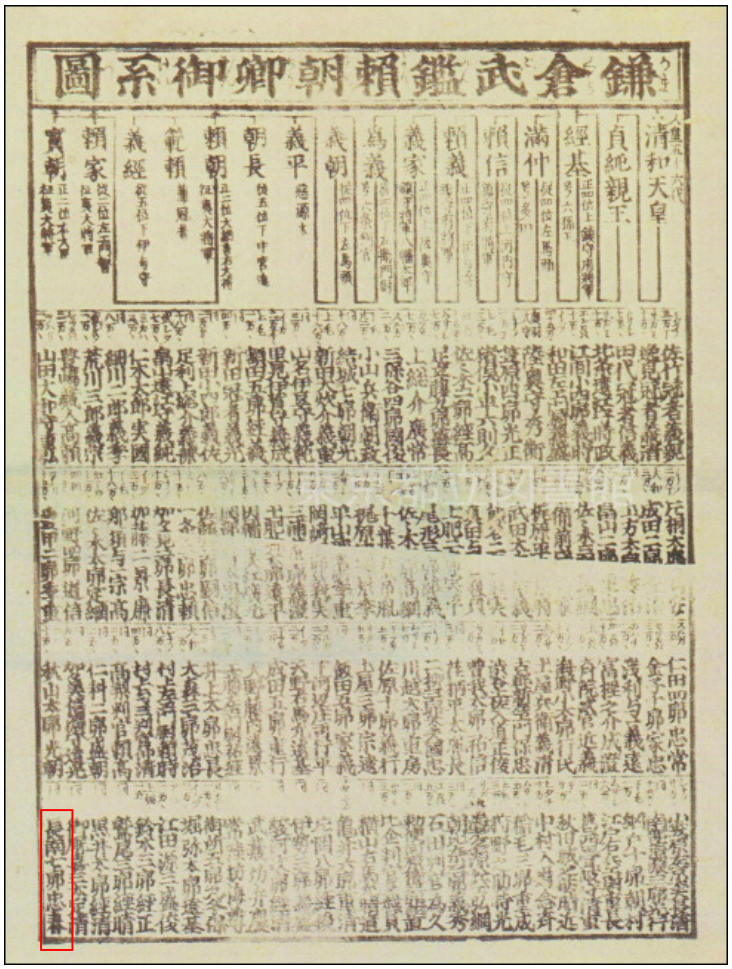
1180年　8月17日	頼朝挙兵 上総介広常の家臣として長南七郎忠春、長南七郎忠清が参軍する
8月23日	石橋川の戦いで敗れる
10月21日	黄瀬川で頼朝と義経が会う
1181年　7月14日	義経、鶴岡若宮宝殿上棟式で馬を牽く この時期ぐらいから忠春は義経にあこがれ家臣になったのでは？ 同時に忠清は雑色（ぞうしき）という非戦闘員として頼朝の使節をしていた 土井兼太郎氏は鎌倉幕府初期時代に庁南殿、庁北殿（鎌倉の南北二館に住む）と称せられた幕府の住職を務めた人で、長南七郎忠清（鎌倉武鑑による、録高不明）というのがあるとしているが、馬喰町附木店（江戸）出版、江見屋吉衛門 文政 鎌倉武鑑に出てこない、もっと別の資料を見ている 又この武鑑には戦闘員としての名前が載せられており、文士や雑色または下級武士はない
1183年 12月10日	義仲、頼朝追討の院宣を得た為、義経、木曽義仲追討のため京に向かう
12月某日	頼朝が梶原景時に命じて上総介広常を殺す。所領は千葉氏等流る
1184年　2月 7日	一ノ谷に平氏軍を破る
7月18日	頼朝が大内惟義、加藤五景員入道父子、滝口三郎経俊らに伊賀国平家の残党討伐するよう雑色が命令伝達する。伊賀地域は治承・寿永の乱で滅亡した平家の本拠地であり、元歴元年（1184年）の三日平氏の乱（平安時代）で平家残党の蜂起が鎮圧された後も根絶されたわけではなく、隠然たる勢力があった。ここに名前が出てこないが長南七郎忠清が関わった可能性が高い
10月20日	頼朝、問注所を設け三善康信を執事とする
1185年　4月29日	違う勢力の代表である兄弟、奥州勢力と関東勢力の連合が西国中心の平氏清盛と争った。関東の求めたものはあくまで敵を倒すための連合なので、その後は一方が完全に屈服しない限り対立は続く 頼朝、西国に義経に従わない旨の文送る、又同様の文を梶原景時にも範頼にも送る
10月29日	頼朝、義経と平家追討のために鎌倉出発
1186年　3月 1日	静御前鎌倉に護送され取り調べを受ける
7月29日	義経の子を産むが頼朝が雑色足立新三郎に命じて、静御前から赤子を無理強いに取り上げ由井浦に棄てさせた
1189年　4月30日	泰衡、衣川に義経を攻め、義経（31歳）妻子と共に自刃
8月 7日	奥州軍、鎌倉軍に陸奥国伊達郡阿津賀志山で敗れる 同時に長南七郎忠春が没したか、逃げ切ったか？
1191年　1月15日	頼朝、前右大将家政所を開設、この時期ぐらいに雑色、長南七郎忠清が兄から家督を継ぎ上総1万石となる 頼朝御系図、鎌倉武勇鑑に兄弟の名前が一度に出ない訳がここにある
1193年 8月17日	頼朝、範頼を伊豆に配流して殺害
1199年 1月13日	頼朝死去（53 歳）
1203年 9月	北条時政執権握る

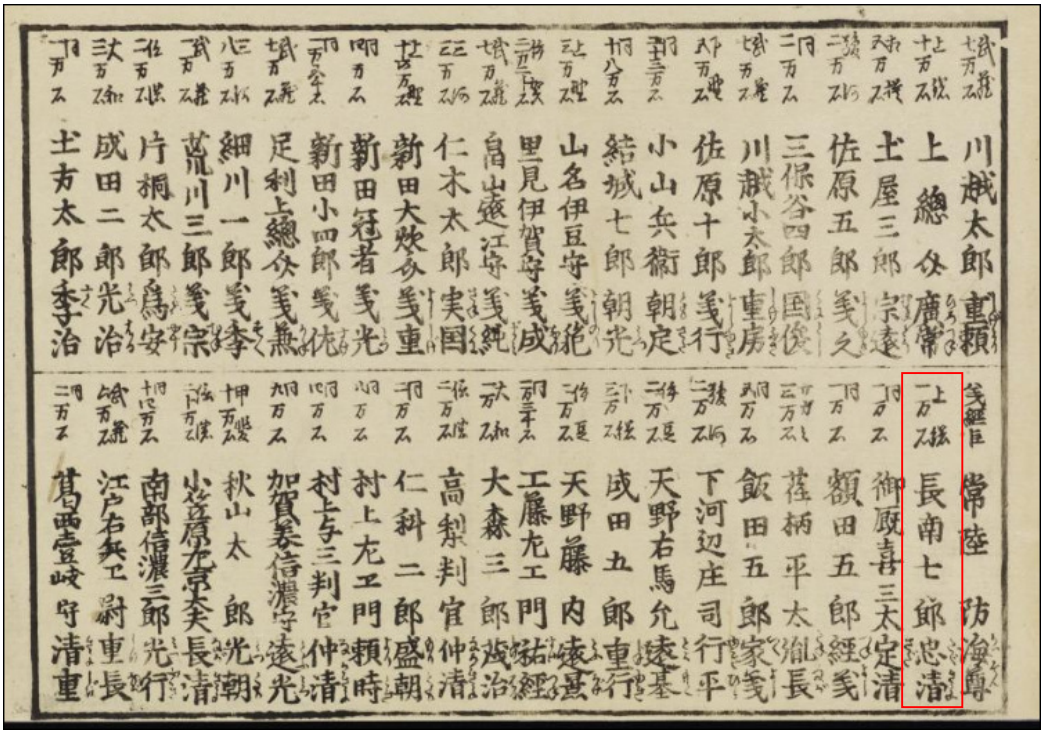
かねてより、我が先祖長南七郎忠清の原文を求めて、２０年間あちこち資料を探していましたが、この度めでたく東京図書館でヒットし、長南七郎忠清は上総１万石、長南七郎忠春は鎌倉武鑑頼朝御系図の名を馳せ、国文学研究資料に長南次郎光重は５万石と鎌倉分限帳に明記されていました。

中村就一様を元気づける為に、又長南会の皆様にご報告致します。　江南正（名張市）

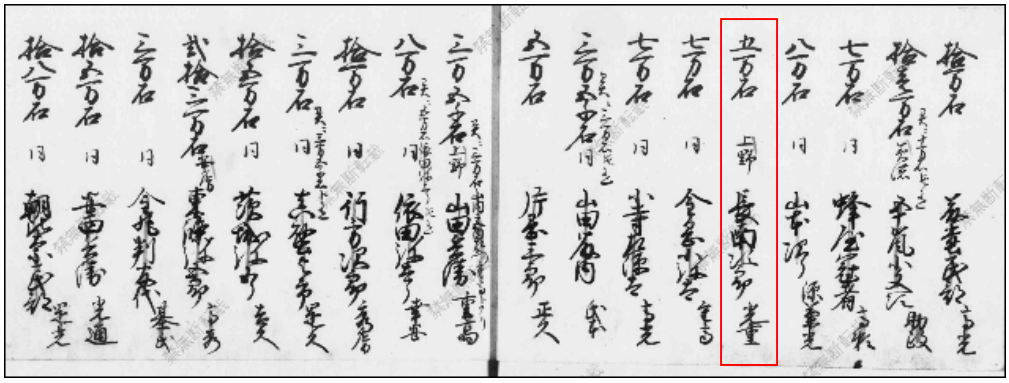
鎌倉武鑑頼朝卿御系図　→
東京都立図書館
http://archive.library.metro.tokyo.jp/da/result_s?q=%E9%8E%8C%E5%80%89

鎌倉武術勇士鑑　↓
https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/digital_archives/kamakura_enoshima/1bukenokoto_kamakura/001kamakurabujutuyuushikagami.htm





鎌倉武術勇士鑑 香蝶楼豊国（歌川豊国）1847 年 長南七郎忠春の名前がある
https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/digital_archives/kamakura_enoshima/1bukenokoto_kamakura/001kamakurabujutuyuushikagami.htm



国文学研究資料館 鎌倉分限帳 5 万石 長南光重
http://base1.nijl.ac.jp/iview/Frame.jsp?DB_ID=G0003917KTM&C_CODE=0281-054502&IMG_SIZE=&IMG_NO=10

中村氏から頂いた、土井実平の子孫土井兼太郎氏が鎌倉幕府初期時代に庁南殿、庁北殿（鎌倉の南北二館に住む）と称せられた幕府の重職を勤めた人で、長南七郎忠清（鎌倉武鑑による。録高不明）は現存する鎌倉武鑑をすべて通読し、国立国会図書館にも手伝って探してもらいましたが、名前すら出てきません。江見屋吉江門による編集ですが時代は文政年間に発刊。土井兼太郎氏は、それ以前の鎌倉武鑑作成の原本を見ているのではないか？

鎌倉武鑑作成時の同時代に名前が出てくるということは、何か根拠となる史料があるはず。一般には公開していないかも、一般市民は閲覧できない、研究者、学者でないと見せてもらえない。長南氏となれば見せて貰えるかも、又複写させてもらえるかも知れない。

史料から私が思うに、長南家が二人出てきていない為、上総一万石の長南七郎忠春は義経と共に没した後、弟の長南七郎忠清が家督を引き継いだのでは。まだまだ土井兼太郎氏の文章の原文を探していかなければ．．．。

皆様も一緒に探してください。それが御先祖様の供養にもなるはずです。

江南正（名張市）